

2021

第8回

佐賀の木・家、リニューアル、まちづくり賞



佐賀の木・家賞



佐賀のリニューアル賞



佐賀のまちづくり賞



特別賞

佐賀の木・家賞

自然・風土・伝統文化等の地域で培われた特性や材料が活かされた建物。
特に、木の良さを活かした建築。(但し佐賀県産の木材が多く使用されているものを
望みますが、そうでなければならないということではありません。)
木造はもとより、コンクリート造及び鉄骨でもかまいません。

知事賞



大和町の家

所在地：佐賀市大和町



◆用途 戸建住宅 ◆延べ面積 157.03㎡

◆構造・階数 木造2階建

◆設計者 柳瀬真澄建築設計工房 柳瀬 真澄
福岡県福岡市 <http://www.yanase-arc.com>

☎ 092-761-8003

◆施工者 (有)筑羽工務店
福岡県大野城市 <https://www.chikuba-koumuten.com/>

☎ 092-558-9881

◆造園 浦田庭園設計事務所株式会社 浦田 知裕
福岡県大宰府市 www.urata-tree.jp

☎ 080-3849-4273

講評

本建築作品は、多布施川河畔公園が道路沿いに大きく屈曲する南側角地に建つ一戸建て住宅です。佐賀平野を流れる嘉瀬川から城内に流れる多布施川沿いの桜並木道を歩くと、北側からも西側からもこの角地に自然と目が行きます。その優れた場所性を生かした作品です。敷地の南北両側に庭を設け、南側の日照を十分に受けることができると同時に、北庭には3本の樹木が植えられて多布施川沿いに歩いてきた時の視線を受け止めており、かつ住宅の2階からは脊振山地を望む豊かな眺望が享受できます。シンプルな外観ですが、深い軒とパーゴラは、佐賀の低平地に寄り添っており、その陰影が周囲の緑とシンクロして景観を引き立てるものになっています。そして、住宅内部は、ダイニングの吹き抜けまわりに上下をつなぐ階段と廊下を配し、豊かなで快適な住環境を創出しています。白漆喰塗りや木等の材料選定や家具選定も生活者との対話が結実して統一されており、建築家の優れた設計能力が発揮された建築作品であることが伝わりました。これらの点が高く評価され、佐賀の木・家賞知事賞にふさわしい作品として選出されました。(三島 伸雄)



一服の小屋

所在地：伊万里市大坪町



- ◆用途 農業小屋 ◆構造・階数 木造平屋建 ◆延べ面積 72.80㎡
- ◆建築主・総合プロデューサー 梶山 裕史
- ◆設計者 有限会社 小川和則建築事務所 小川 和則 武雄市武雄町 ☎0954-23-0608
- ◆施工者 有限会社 諸岡建設 <http://wafu-jutaku.com/> 嬉野市嬉野町 ☎0954-43-1820
- ◆施工者 有限会社 野田造園 長崎県西海市 ☎0959-27-1327
- ◆施工者 有限会社 恭垂板金工業 嬉野市嬉野町 ☎0954-42-1280

講評

この建物は施主が定年退職後、畑仕事が生活の中心となったことを機に建築された作業小屋です。

建築に際しては、作業の流れや道具の配置などを考慮しながら、「軒先を低くし屋根の高さを抑え、周辺環境と同化させたい」という施主の思いを汲み取った設計がなされています。

更に、この建物には、畑仕事の合間に作物を眺めながら一服できる深い底の軒下空間があります。また、ばんこや薪ストーブを設置し、親せきや友人を招いて餅つきや月見などを催すことができる「くつろぎ室」も整備されています。

小屋の前に広がる畑での作業を自然に行えるだけでなく、親しい人たちとの語らいの場としても活用されています。

一般的に、納屋や作業小屋は、収納や作業に関する機能を満たすためだけに作られますが、この小屋の建築によって、施主が日々の何気ない畑仕事の中での喜びや、人との繋がりを一層大切にされているように感じました。

そうしたところが、これまでの納屋や作業小屋のイメージを一新するものとして評価され、賞に選出されました。(諸石 知啓)



松島搦の住宅

所在地：伊万里市松島町



- ◆用途 戸建住宅 ◆構造・階数 木造平屋建 ◆延べ面積 98.54㎡
- ◆建築主 前山 純平
- ◆設計者 Takashiro Architects 福岡県福岡市／伊万里市二里町 ☎092-986-4707
<https://takashiro-architects.jp>
- ◆施工者 けんちく工房橋 有限会社 武雄市橋町 ☎0954-20-0163
<https://www.kentachi.co.jp>

講評

南北に長い木造平屋建てのシンプルな住宅で、外観の一番の特徴は大きな屋根です。敷地の南側に複数の商業施設があるので、どうプライバシーを確保するか工夫されています。高い塀で囲ってプライバシーを守るのではなく、大きな屋根をかけて、深い軒先空間を確保することで調整が図られています。

床は木目模様が際立つ杉板浮造り材を使用し、内部は柱や梁を表すことで、どこで過ごしていても木の温かさを全身で感じることができます。

限られたコストで最大限の空間を確保するため、中央部に大きくLDKを配置し、直接寝室や子供部屋へ移動ができます。また、ライフスタイルの変化に対応できるように、内部の間仕切り壁は全て取り外し可能な乾式の木製壁にし、将来の間取りの変更にも対応できるように設計されています。

木造建築の良さを施主である若夫婦や地域の人にも伝えたいと思う設計者のさまざまな工夫が感じられ好感がもてました。(徳永 智子)

佐賀の リニューアル賞

佐賀の地域で活躍してきた建物をリニューアルし今後も活かしていく建物など。



ARITA PLUS

所在地：西松浦郡有田町



- ◆用途 シェアオフィス ◆構造・階数 木造2階建 ◆延べ面積 63㎡
- ◆建築主 株式会社 ARITA PLUS
- ◆設計者 hotaru studio 一級建築士事務所 富田 文彦 西松浦郡有田町
Instagram: hotaru_studio <https://hotarustudio.com>
- ◆施工者 株式会社 小林産業 西松浦郡有田町 <http://www.kobasan.co.jp/> ☎0955-46-2177

講評 有名な有田内山の重要伝統的建造物群保存地区に連なる歴史的景観形成地域にある白壁土蔵造りの建物。その二階部分をシェアオフィスにリフォームしている。

補強した上でオリジナルの小屋組みを見せているところ、適宜窓を抜き採光を確保しているところ等の手法は特に斬新なものではないが、全体としてよく考えられた合理的で無難な空間にまとめられている。

その中にあって、会議室の外壁一面に貼られた青色基調の有田焼タイルは突出して強い主張を放っている。地元の窯元が共同で立ち上げたデザインユニットのための空間だということを知れば、なるほどと納得がいく。

昔は生活の中にタイルがいっぱいあったものだが、最近ほとんど見かけなくなった。こうした今風の使い方がタイル復活につながってくると良いと思う。「こんな風呂場もいいよな」と突拍子もない空想をしてしまった。

建物外観はほとんど変更されていないが、採光目的で外された正面二階部分の縦格子は、少し細い桟木に替えるなどして残しても良かったように思う。オリジナルの意匠であったなら、の話ではあるが。(樋口 明彦)



うれしのくど造りの家

所在地：嬉野市塩田町



- ◆用途 戸建住宅 ◆構造・階数 木造2階建 ◆延べ面積 178.12㎡
- ◆建築主 肖 峰 嬉野市塩田町
- ◆設計者 ie工房弘祐 www.iekobou.com 鹿島市三河内甲 ☎0954-62-7443
- ◆施工者 有限会社 諸岡建設 嬉野市嬉野町 ☎0954-43-1820
- ◆施工者 葺き職人 棟梁 喜多 平 嬉野市塩田町 ☎0954-66-5018

講評 郷土の景観をかたちづくる「くど造り」の建物が見事に再生された。施主の情熱と、それに応えたりフォーム関係者の質の高い仕事に、まずは敬意を表したい。

白壁と手入れの行き届いた庭木越しに見え隠れする葺屋根の独特の存在感。コロナ禍のため映像でしか拝見できないが、完璧に葺き替えられたその美しさは十分に伝わってくる。

内部空間はオリジナルのディテールをしっかりと残しつつ巧みにバリアフリー化され、現代的なライフスタイルに対応している。手間のかかるベタ基礎改修を実施したことで、建物の寿命はぐんと長くなったことだろう。

屋根の葺き替えや伝統的な造作仕事をきちんとこなせる職人さん達は今や絶滅危惧種。本件のような機会を今後も継続的に作り出し、伝統技術や哲学を未来に向けて繋いでいかなければならない。所有者任せでは限界があるので、佐賀県はじめ関係者のさらなる努力に期待したい。

コロナが収束したらぜひお邪魔させていただき、この空間の中でゆったりと過ぎていくのであろう贅沢な時間をしばし体験させていただきたいものである。(樋口 明彦)

佐賀の
まちづくり賞

地域の良好な景観形成や暮らしに豊かさを与えるまちなみ、
または、そうしたことに貢献しているまちづくり活動グループ・個人など。

知事賞



水鏡プロジェクト おほり灯ろうまつり

開催地：佐賀城公園南濠



◆用途 活動 ◆主催者 水鏡プロジェクト実行委員会

◆協力団体等

赤松まちづくり協議会

学校法人佐賀龍谷学園 龍谷高等学校

佐賀女子短期大学

公益財団法人佐賀県国際交流協会

佐賀市立赤松小学校

佐賀県立佐賀西高等学校

佐賀大学

佐賀県観光課・文化課

佐賀大学教育学部附属小学校

佐賀市立城南中学校

西九州大学短期大学部

佐賀県建築士会有志

など

講評

閑静な住宅街の中で鏡のように空を映す佐賀城のお堀。佐賀城は平野に築かれた平城で、攻め込まれたときに主要部以外を水没させて敵から守ることを想定されていて、異名「沈み城」とも言われます。お堀も足下の平らな土地から広がっているのも青空を鏡のように映してくれて、思わず立ち止まって見惚れてしまいます。

そのお堀で、景観やまちづくりの議論で見失われがちな佐賀の夜景にも目を向けてもらおうと始められた「水鏡プロジェクト」ですが、継続して開催されていることにただただ敬服するばかりです。安定した運営に至るまで多くのご苦勞をされているはずですが、立ち上げた佐賀県建築士会三地区青年委員会の方々は年を重ねるごとに規模を拡大させ、赤松まちづくり協議会とも連携するに至っています。

「地域のみinnで創りあげる」—お堀の素晴らしさを改めて実感できる機会をつくっておられ、地元の方はもちろん、近所の小中高の生徒、外国人にも支えられた取り組みはまさに「まちづくり」。「おほり灯ろうまつり」は、地元の方や子どもが手作りした灯ろうが幻想的に水面に映り、多くの子どもたちが佐賀の魅力、平常のお堀の魅力に気づいてもらえたらいいですね。活動がさらに広がり、佐賀城を囲むすべてのお堀での開催を祈ります。(中野 星次)